

ゆうこみゆき。



なるほどアイヌ文化トーク ソノコ de ソノコ

アイヌ文化にどっぷり浸って生きてきた
本田優子(札幌大学副学長)と
村木美幸(アイヌ民族博物館専務理事)が、
その魅力をソノコ(=お便り)形式で語り合います。



今月のテーマ **カムイモシリ(神々の世界)**



イラスト/安田千夏

「カムイモシリ」神々の世界」。

ギリシャ神話に登場するゼウスやアフロディテのような荘厳かつ美しい神様たちの世界かって? ごめん、かなり違います。たぶん、カムイを日本語で「神」と訳すから、誤解されるんでしょうね。アイヌの人たちにとってのカムイは、人間の周囲にいる動物や植物、火や水、雷や風…。いつてみれば「自然」と言いかえることもできるような存在なの。カムイたちは通常はカムイモシリで暮らしているんだけど、私たちの目に見える自然界のカムイは、なんらかの役割を持って一定期間、アイヌモシリ(人間世界)に下るされてきているんだって。

ところで、カムイはカムイモシリではどんな姿をしていると思う? 答えは、「人間と同じ姿」。というか、カムイが人間に似ているんじゃないかって人間がカムイに似てるんだそう。この考え方は他の宗教にも見られるけど、大きく違うのは、アイヌ文化のカムイたちは、アイヌモシリに来る時に変身するということ。人間と同じ姿と言っても、カムイモシリは靈魂の世界なので肉体は無いの。でも、アイヌモシリに行くには肉体が必要なので、そのための衣をまとう。するとタヌキのカムイはタヌキの姿、カエルのカムイはカエルの姿に変身! なんだから想像するだけで楽しいよね。



それじゃあ、カムイモシリでの暮らしはというと、これまた「人間と同じ」といわれるの。男神は彫刻をし、女神は針仕事をして日々暮らし、恋愛をし、結婚も…。時には、夫神の浮気に嫉妬をし、浮気相手とバトルまで繰り広げちゃったりもするんだよね。人間に多くの知恵を授けてくれる偉いカムイであっても同じというか、何か親近感が湧くよね。

物語などでは、偉いカムイであればあるほど立ち居振る舞いが重々しく、ゆっくりしているんだっていうよね。身支度をするのに、片方の脛当てすねあてを付けるのに6日、片方の手甲てまがらを付けるのに6日:。「6」は「たくさん」という意味もあるから、いったい何日かけて支度するのかと思います。このゆったりとした重厚な動きはカムイモシリならではのよね。

人間にとってカムイの存在がかげがえの無いものであるように、カムイにとっても人間は必要な存在。カムイには作ることでできないイナウイナウ(木幣もへい祭具のひとつ)は最高の贈り物であり、宝物だし、人間の供える美味しいお酒もうれしいご馳走。これらを人間からたくさん贈られるカムイは豊かに暮らすことができると。カムイと人間が、お互いを補完し合う大切な関係であるってことが、すごく重要なことだよ。

